

欧州評議会の「民主的な文化への能力と135項目のキーディスクリプター」の邦訳

Japanese Translation of the Council of Europe's
“Competences for Democratic Culture and their 135 Key
Descriptors”

櫻井省吾 宮本真有 近藤行人 近藤有美
Shogo SAKURAI Mayu MIYAMOTO Yukihiro KONDO Yumi KONDO

訳者まえがき

本稿は、欧州評議会による「民主的な文化への能力参照枠¹：第2巻 民主的な文化へのディスクリプター (*Reference Framework of Competences for Democratic Culture: Volume 2 descriptors of competences for democratic culture*)」(Council of Europe, 2018b)に記載のある、民主的な文化への能力(Competences for Democratic Culture:以下CDC)と、それを教育場面で観察可能な言動という観点から記述した135項目からなるキーディスクリプターの邦訳である。

「民主的な文化への能力参照枠」(以下RFCDC)の構築は、2005年5月にワルシャワで開催された第3回欧州評議会サミットにおける、「民主的な文化を推進するためには市民性の教育²が重要である」という話し合いが端緒となった。その後欧州評議会は、市民性の教育への取り組みとして、2007年にThe Council of Europe, in Recommendation CM/Rec (2007) ⁶³で「労働市場への参加準備」「民主的な社会において能動的な市民として生きる準備」「自己啓発」「幅広く高度な知識の形成と維持」の4つの教育目標を掲げた。さらに、2010年にはThe Council of Europe Charter on Education for Democratic Citizenship and Human Rights Education (“EDC/HRE”)を立ち上げ、「民主的な市民性の教育 (Education for Democratic Citizenship)」と「人権教育 (Human Rights Education)」

に主眼を置くようになった (Council of Europe, 2018a)。これらの教育変革の流れに乗り、欧州評議会では未来の子どもたちが多文化社会の中で能動的で責任ある社会人に成長していくための能力を、「民主的な文化への能力」とし、図1のようなモデルを示した。CDCは、「価値観」「態度」「スキル」「体系的な知識と批判的な理解」とその下に置かれる20の能力から構成されている。さらに、それぞれの能力の到達度を確認するためのキーディスクリプターを135項目設定し、これらを Basic、Intermediate、Advanced の3段階に分類した。CDCのモデル、妥当性が確認されたすべてのディスクリプター、135項目のキーディスクリプターやその開発経緯が含まれている「民主的な文化への能力参照枠:第2巻 民主的な文化へのディスクリプター (Reference Framework of Competences for Democratic Culture: Volume 2 descriptors of competences for democratic culture)」(Council of Europe, 2018b)は、英語を含む9つのヨーロッパ言語⁴で欧州評議会のホームページに公開されている。

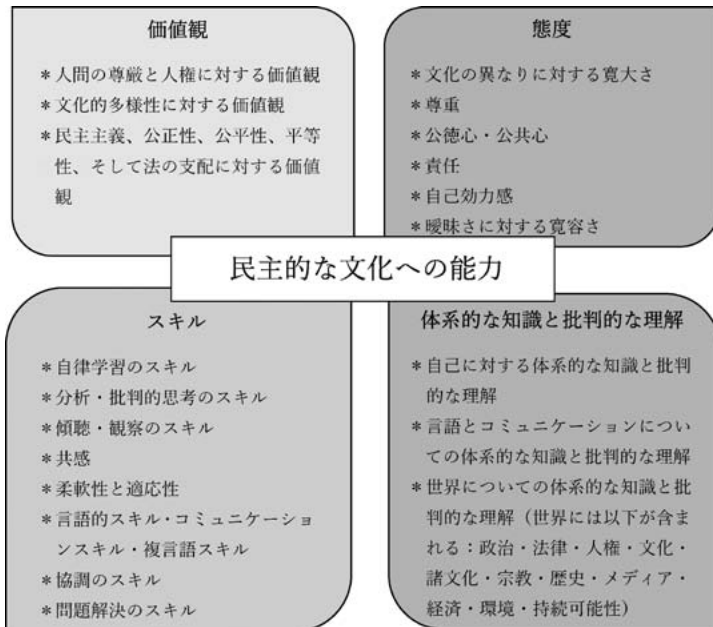


図1：民主的な文化への能力モデル (Council of Europe, 2018a, p. 38)

このRFCDCは、グローバル化、国際化が急激に進む昨今、異文化間の平和的共存を推し進めるために必要不可欠な能力である異文化間能力 (intercultural competence) を基盤としている。異文化間能力については、これまでに様々な分野で30以上のモデルと300以上の異文化間能力の構成概念が紹介されてきたが (Holt & Seki, 2012; Spitzberg & Changnon, 2009)、欧州評議会はこれらを参考にしながらも、民主的文化のために必要な能力の記述を独自に目指したのである。

135項目のキーディスクリプターは、以下に示す複数の段階⁵を経て構築されたものである。まず、CDCを構成する20の能力を特定し (詳しい特定方法は Council of Europe (2016) *Competences for democratic culture: Living together as equals in culturally diverse democratic societies* を参照)、次に、異文化間能力の分野の専門家たちが、それぞれのディスクリプターの作成に取り掛かった。そこでは、20の能力の潜在的なディスクリプター (以下 potential descriptor) として、98に及ぶリソース (例: 教育関係の資料、研究資料、政策文書等) から2,085項目が作成された。これらの potential descriptor は (1) 簡潔さ、(2) 肯定性、(3) 明瞭さ、(4) (他のキーディスクリプターからの) 独立性、(5) 確実性の5つの基準を基に批判的に精査され、その結果1,371項目をディスクリプターの草案 (以下 draft descriptor) とした。次に、RFCDCの構築に関わる専門家グループのメンバーに1,371項目の draft descriptor がCDCの概念を観察可能な言動を記述する上で適しているかどうか、また上記の5つの基準に適合しているかどうかについて検討してもらい、肯定的なフィードバックを受けた990項目を残した。さらに、これらの990項目の draft descriptor を10のヨーロッパ言語に訳し、15か国にいる教師など、教育に従事する様々な専門家1,236名を対象にオンラインアンケートを実施した。このアンケートでは990項目の draft descriptor がCDCを記述するのに適しているかどうかを調べ、その結果、559項目が選定された。この559項目をヨーロッパの16か国で、様々なレベルの教育機関、異なる社会文化的な文脈で働く教師858名を対象としたパイロット・スタディで検証し、447項目のディスクリプターの妥当性が認められた。そして最後に、項目応答理論 (ラッシュモデル) に基づいた

分析により、447項目を難易度別に分類し、到達度の測定を可能にした。統計的分析及び質的分析の結果、135項目がキーディスクリプターとして最終的に特定された（Council of Europe, 2018b）。

上記過程により特定された135項目のキーディスクリプターを今回邦訳するにあたり、以下の手順を踏んだ。まず、135項目のキーディスクリプターのうち、櫻井が項目1-69、宮本が項目70-135の邦訳の草稿を作成した。そして、全筆者が草稿をベースにすべてのディスクリプターについて案出したそれぞれの訳を持ち寄り、1項目ずつ議論した。CDCには20の能力が含まれるが、1つの能力（とそこに含まれるキーディスクリプター）の議論には約2～3時間をかけ、詳細に検討した。邦訳作成時に、4名の筆者が念頭においたのは以下の3点である。

- 原文が作られた目的・社会的文脈が教育現場での使用であること
- 原文に忠実な訳を基本とすること（わかりにくい日本語になった場合のみ、わかりやすく書き換えたり、言葉を補足したりする）
- 大学生でも理解できるように、特殊な専門用語は避けること

この方針のもとで原文の意味、意図、表現を訳文と照応して検討し、全員の同意が得られたものを最終的な邦訳とした。その過程で、原文にはあらわれていない含意や、ある語が文中でどのような意味で用いられているか等、筆者らの間で見解が揺れたものについては、RFCDCの構築に携わったチームの主要メンバーであるMartyn Barrett氏へ直接メールで問い合わせ確認した。

本稿の邦訳が今後、日本の教育現場において、児童、生徒、及び学生の「民主的な文化への能力」を育成、記述するにあたり1つの有用なツールとなりえれば幸いである。ただし、訳語の選択、英文の解釈などについてはすべて筆者らの責任に帰することはいうまでもない。

民主的な文化への能力とキーディスクリプター

価値観

1. 人間の尊厳と人権に対する価値観

	キーディスクリプター	到達度
1	人権はいつも守られ尊重されるべきだと主張する	Basic
2	子供固有の権利は、社会によって守られ尊重されるべきだと主張する	Basic
3	人はだれしも、身体的苦痛を与えられたり、非人道的、または屈辱的な扱いや罰を受けたりするべきではないという見解を支持する	Intermediate
4	すべての公共機関は人権を守り、尊重し、正しく取り扱うべきだと主張する	Intermediate
5	収監されている人々は、自由に制限はあっても、人間としての尊重と尊厳は一般の人と同等に守られるべきだという見解を支持する	Advanced
6	全ての法律は、国際的な人権の規範や基準との一貫性が保持されるべきだという見解を示す	Advanced

2. 文化的多様性に対する価値観

	キーディスクリプター	到達度
7	社会の中の異なる信念を持った人々に対して寛容であるべきだという見解を推奨する	Basic
8	お互いを「違う」と感じているグループや個人間において、人は常に、有意義な対話を行い、相互理解を深める努力をすべきだという見解を推奨する	Basic
9	一社会における文化の多様性は、肯定的に評価され、その良さが理解されるべきだという見解を示す	Intermediate
10	異文化間対話は、互いの異なるアイデンティティーや文化的所属を認識する手助けのために用いられるべきだ、と主張する	Advanced
11	異文化間対話は、互いを尊重する精神を育て、「共に生きる」という文化を発展させるために用いられるべきだ、と主張する	Advanced

3. 民主主義、公正性、公平性、平等性、そして法の支配に対する価値観

	キーディスクリプター	到達度
12	学校は、民主主義及び民主的な市民としてどのように振るまうかを教えるべきであると主張する	Basic
13	すべての市民は法律の下で、平等かつ公平に扱われるべきだという見解を示す	Basic
14	法律は常に公正に適用され、施行されるべきだと主張する	Basic
15	民主主義的な選挙は、国際的基準と国の法令に則り、常に公正かつ何者かによる制約なく行われ、その上、不正なく実施されるべきだと主張する	Intermediate
16	公的役人が権力を行使する際、その権力を悪用したり、法的権限の境界を越えるべきではないという見解を示す	Intermediate
17	司法へのアクセスは、高額すぎる、面倒すぎる、または、複雑すぎるなどの理由で訴訟を起こす機会が奪われることなく、すべての人にとって容易であるべきだ、という見解を支持していることを示す	Intermediate
18	立法権を委ねられた人は、法律と憲法による適切な制限下にあるべきだ、という見解を支持していることを示す	Advanced
19	公共政策の情報とそれらの施行について公にされるべきだという見解を示す	Advanced
20	市民権を侵す公的権力者の言動に対して、効果的な救済があるべきだと主張する	Advanced

態度

4. 文化の異なりに対する寛大さ

	キーディスクリプター	到達度
21	他人の考え、価値観、慣習、世界観について知ることに興味を示す	Basic
22	外国へ旅行することに興味を示す	Basic
23	自分とは異なる考えや解釈、及び、他者の文化的志向性や彼らが属する集団に好奇心を示す	Intermediate
24	自分とは異なる文化を経験する機会を得られることに感謝の気持ちを表す	Intermediate
25	自分とは異なる価値観や習慣、振る舞いをする人たちと出会う機会を自ら求め、それを好意的に受けとめる	Advanced
26	他者の文化について学ぶために、その人たちとのつながりを求める	Advanced

5. 尊重

	キーディスクリプター	到達度
27	他者が自由に自己表現できる機会を奪わないようにする	Basic
28	自分と同等な人間として、他者への尊重の念を示す	Basic
29	文化的背景に関係なく、すべての人に敬意を持って接する	Intermediate
30	自分とは異なる社会経済的地位の人に対して尊重の念を示す	Intermediate
31	宗教的な異なりに尊重の念を示す	Advanced
32	自分とは異なった政治的見解を持つ人に尊重の念を示す	Advanced

6. 公德心・公共心

	キーディスクリプター	到達度
33	他者と協力し、共に取り組む意欲を示す	Basic
34	共通の興味・関心を持つ人と協働する	Basic
35	他者の尊厳や権利が脅かされているような状況において、傍観者としての立場をとらないという決意を示す	Intermediate
36	コミュニティをよりよい場所にするために何ができるかを話し合う	Intermediate
37	地域、国家、そしてグローバルなレベルにおいて、能動的な市民としての義務と責任を果たす	Advanced
38	市政の話題・問題点などについて常に知っている状態を保つよう行動する	Advanced

7. 責任

	キーディスクリプター	到達度
39	自分の行動に対して責任を持つことを示す	Basic
40	他者の感情を害したとき謝る	Basic
41	与えられた課題を遅れることなく時間内に提出する	Intermediate
42	自分のミスに対して責任を負うことを示す	Intermediate
43	常に他者に対しての約束・責任を果たす	Advanced

8. 自己効力感

	キーディスクリプター	到達度
44	自分の力で問題点を理解する、という考えを示す	Basic

45	自分が計画した活動を実行・遂行することができる、という考えを示す	Basic
46	目標達成に向かって進んでいるとき困難に出会っても自分の力で切り抜ける、という考えを示す	Intermediate
47	何かを変えたいとき、自分にはそれができると自信を示す	Intermediate
48	人生の難題に立ち向かう自分の力に不安を感じないことを示す	Advanced
49	自分の高い問題解決力により、予期しなかった状況に対してどのように対処すべきかわかる、という自信を示す	Advanced

9. 曖昧さに対する寛容さ

	キーディスクリプター	到達度
50	自分とは異なる様々な視点・観点を持っている人たちと上手く関わる	Basic
51	他者に対しての判断を一時的に留保できることを示す	Basic
52	馴染みのない状況を心地よく感じる	Intermediate
53	不確かさに対して、ポジティブかつ建設的な態度で対応する	Intermediate
54	予測不可能な状況において、上手く取り組む	Intermediate
55	自分のアイデアや価値観についての批判を望んでいることを示す	Advanced
56	曖昧な問題へ取り組むという挑戦を楽しむ	Advanced
57	複雑な事態に取り組む楽しさを表現する	Advanced

スキル

10. 自律学習のスキル

	キーディスクリプター	到達度
58	学習のためのリソース（人、本、インターネット）を見極める能力を示す	Basic
59	必要に応じて他者から得た新しい情報の明確化を求める	Basic
60	最小限の管理・監督のもとで、新しい話題・テーマについて学ぶことができる	Intermediate
61	自分の作業の質を評価できる	Intermediate
62	数ある中から、最も信頼できる情報やアドバイスを選択できる	Advanced

63	直接的な管理なしに、課題をモニタリングし、明確化し、優先順位を決め、完遂する能力を示す	Advanced
----	---	----------

11. 分析・批判的思考のスキル

	キーディスクリプター	到達度
64	新たな情報と既知の情報の相違点を特定することができる	Basic
65	自分の意見を裏付けるために根拠を用いる	Basic
66	異なる選択肢に伴うリスクが評価できる	Intermediate
67	自分の用いる情報が正しいかどうかについて検討することを示す	Intermediate
68	分析している資料にある、相違、矛盾、または逸脱を特定することができる	Advanced
69	判断材料として、明示的かつ具体的な基準、原則、または価値観を用いることができる	Advanced

12. 傾聴・観察のスキル

	キーディスクリプター	到達度
70	異なる意見を注意深く聞く	Basic
71	他者（が話すこと）に注意を払って熱心に聞く	Basic
72	話し手の言っていることの意味を理解するための手がかりとして、話し手のジェスチャーやボディランゲージを注意して見る	Intermediate
73	他者（が話すこと）の意味と意図を解釈するために、効果的に聞くことができる	Intermediate
74	他者が口には出さず、暗に示すことに注意を払う	Advanced
75	他の文化に属する人々が、同じ状況に対して、どのように様々な反応をするかに気づく	Advanced

13. 共感

	キーディスクリプター	到達度
76	仲間が自分の助けを必要としているとき、気づくことができる	Basic
77	自分が目にした他者に起こる不幸な出来事に、思いやりの気持ちを示す	Basic

78	物事が友人の視点からどのように見えるかを想像することによって、彼らをよりよく理解しようと努力する	Intermediate
79	判断・決定を下すとき、他者の気持ちを考慮する	Intermediate
80	他国の人々について考えるとき、その国の人たちの喜びや悲しみを共有するという見解を示す	Advanced
81	他者が感情を表に出したくないというときでも、正確にその人の感情を見極めることができる	Advanced

14. 柔軟性と適応性

	キーディスクリプター	到達度
82	合理的な議論が示されれば、必要に応じて自分の考えや意見を修正する	Basic
83	自分の決定によってもたらされた結果に応じて、必要であれば自分の決定を変更することができる	Basic
84	新しいスキルを使って、新しい状況に適応する	Intermediate
85	(今までとは) 違った方法で知識を応用し、新しい状況に適応する	Intermediate
86	他の文化に属する人々と交流する際、そのグループの社会的慣習を取り入れる	Advanced
87	他の文化に相応しくなるよう、自分の言動を修正することができる	Advanced

15. 言語的スキル・コミュニケーションスキル・複言語スキル

	キーディスクリプター	到達度
88	問題に関して自分の考えを示すことができる	Basic
89	話し手が言ったことが自分にとって明確でなかったら、もう一度言ってもらおう頼む	Basic
90	他者の立場を理解していることが表れる質問をする	Intermediate
91	丁寧さ・礼儀正しさを表す、他の言語の様々な表現方法を取り入れることができる	Intermediate
92	翻訳や通訳、あるいは説明をすることにより、異文化間交流の言語的な仲介をすることができる	Advanced
93	異文化間でおこる誤解をうまく避けることができる	Advanced

16. 協調のスキル

	キーディスクリプター	到達度
94	グループ内のメンバーと良好な関係を築く	Basic
95	グループの一員として作業をする際、自分の分担分をこなす	Basic
96	グループの目標を達成するために、メンバーの合意を得るよう努める	Intermediate
97	グループの一員として作業をする際、関連情報や有益な情報を、他のメンバーへ常に知らせておく	Intermediate
98	共通の目標を達成するため、グループメンバーのやる気を引き起こす	Advanced
99	他者と一緒に作業をする際、たとえ見解の相違があっても他者をサポートする	Advanced

17. 問題解決のスキル

	キーディスクリプター	到達度
100	自分とは異なる考えを持った相手と、敬意を持ってコミュニケーションをとることができる	Basic
101	もめごとを解決するための選択肢を特定することができる	Basic
102	他者間のもめごとにおいて、(第三者として自分が) 解決に有効な選択肢に対する当事者の理解を向上させ、もめごとを解決する手助けができる	Intermediate
103	もめている当事者に対して、お互いの意見に積極的に耳を傾け、それぞれの抱える問題や懸念について共有するように働きかけることができる	Intermediate
104	対人関係における問題の解決を手助けするため、定期的にコミュニケーションを取ろうとする	Advanced
105	もめごと巻き込まれている状況において、他者が感じる感情的ストレスや不安、自信のなさについて、効果的に対処することができる	Advanced

体系的な知識と批判的な理解

18. 自己に対する体系的な知識と批判的な理解

	キーディスクリプター	到達度
106	自分のモチベーションについて、説明することができる	Basic

107	自分の考えや感情が行動にどのように影響するのかについて述べることができる	Basic
108	自分の価値観や信念について、批判的に振り返ることができる	Intermediate
109	自分自身について、多角な視点から批判的に振り返ることができる	Intermediate
110	自分自身が持っている偏見やステレオタイプ、そしてそれらの背後にあるものを、批判的に振り返ることができる	Advanced
111	様々な場面での自分の感情や気持ちについて、批判的に振り返ることができる	Advanced

19. 言語とコミュニケーションについての体系的な知識と批判的な理解

	キーディスクリプター	到達度
112	口調、アイコンタクト、ボディランゲージがどのようにコミュニケーションの一助になるかを説明することができる	Basic
113	異なるコミュニケーションスタイル（意思や感情・思考の異なる表現方法）が与える、社会的インパクトと他者への影響を説明できる	Intermediate
114	社会的関係性が、どのように会話で使用される言語形式（例：挨拶、呼びかけ方、it/thereなどの虚辞）にしばしば変換されるかを説明できる	Intermediate
115	他の文化に属している人々が、なぜ時に異なる（しかし彼らの視点では意味のある）言語的、そして非言語的コミュニケーションの慣習に従うのかを説明することができる	Advanced
116	少なくとも一つの（自分のとは違う）社会集団もしくは文化で用いられている、異なるコミュニケーションの慣習・しきたりについて、批判的に熟考することができる	Advanced

20. 世界についての体系的な知識と批判的な理解（世界には以下が含まれる：政治・法律・人権・文化・諸文化・宗教・歴史・メディア・経済・環境・持続可能性）

	キーディスクリプター	到達度
117	民主制、自由、市民性、権利、義務を含めた、基礎的な政治的概念の意味を説明することができる	Basic
118	なぜすべての人は他者の人権を尊重する責任があるのかを説明できる	Basic

119	(自分とは)別の、ある一つの文化における基本的な文化的慣習(例:食習慣、挨拶の慣習、人の呼称、礼儀)を説明することができる	Basic
120	世界についての自分の見解は、数多くある見解のうちの一つにすぎないと、批判的に振り返ることができる	Basic
121	我々の社会が自然界に及ぼす影響、例えば人口増加や個体数の推移、資源消費などを評価することができる	Basic
122	環境被害に関連するリスクについて批判的に熟考する	Basic
123	人権の持つ普遍性、固有性、不可侵性という人権の本質について説明できる	Intermediate
124	グローバル化した世界における、人権、民主制、平和、安全保障の関係性について、批判的に熟考できる	Intermediate
125	人権の濫用をもたらすステレオタイプや偏見を含む、人権侵害の根底にある原因について批判的に熟考できる	Intermediate
126	個人の行動をその文化全体に一般化する危険性を説明できる	Intermediate
127	宗教的象徴、宗教的儀式、言語の宗教的使われ方について批判的に熟考することができる	Intermediate
128	プロバガンダが現代社会にもたらす影響力を説明することができる	Intermediate
129	人々がどのようにしてプロバガンダを警戒し(その影響から)自身を守ることができるかについて、説明できる	Intermediate
130	市民が政策・方針に影響を与えることができる多様な方法を説明することができる	Advanced
131	人権の枠組みの進化し続ける性質と、世界の異なる地域で発展し続ける人権について、批判的に熟考できる	Advanced
132	元来の特徴が全く変化しない文化的集団が、なぜ存在しないかを説明できる	Advanced
133	宗教的な集団全てが、なぜ常に発展し、変化しているのかを説明できる	Advanced
134	歴史が、いかに頻繁に自民族中心的な視点から提示され、教えられるかについて、批判的に熟考できる	Advanced
135	国家経済について、そして経済と金融のプロセスが社会の機能にどのように影響しているかについて、説明することができる	Advanced

謝辞

本稿の邦訳にあたっては、RFCDC構築の主要メンバーである Martyn Barrett 氏より数々の貴重なコメントをいただいた。この場を借りて感謝を申し上げます。

注

- ¹ “Competences for Democratic Culture” の邦訳には「民主的な文化のための能力」(笹島・工藤・荊・Larry・Haruna 2020) もあるが、本稿では民主的文化へむかうという意を汲んだ、山本 (2019) の「民主的な文化への能力」を採用した。
- ² 山本 (2019) は、“Citizenship” が文脈依存の語であり、コンテキストにより邦訳が変わることを指摘している。本稿では “Citizenship Education” 及び、“Education for Citizenship” は「市民性の教育」と訳す。
- ³ The Council of Europe, in Recommendation CM/Rec (2007) 6にあるCM (Committee of Ministers) とは、欧州評議会に加盟している各国の外務大臣による最高意思決定機関であり、2007年に策定された6つ目の勧告という意味である。
- ⁴ 「民主的な文化への能力参照枠：第2巻 民主的な文化へのディスクリプター (*Reference Framework of Competences for Democratic Culture: Volume 2 descriptors of competences for democratic culture*)」(Council of Europe, 2018b) の英語、アルバニア語、フランス語、グルジア語、マケドニア語、ポルトガル語、ルーマニア語、スロバキア語、ウクライナ語版は欧州評議会のホームページに公開されている。
- ⁵ 135項目のキーディスクリプターはCEFRのディスクリプター(能力記述文)と同様の手順で構築された。

参考文献

- Council of Europe (2016). Competences for democratic culture: living together as equals in culturally diverse democratic societies. Retrieved September 3, 2020, from <https://rm.coe.int/16806ccc07>
- Council of Europe (2018a). *Reference framework of competences for democratic culture: Volume 1 context, concepts and model*. Retrieved April 10, 2020, from <https://rm.coe.int/prems-008318-gbr-2508-reference-framework-of-competences-vol-1-8573-co/16807bc66c>
- Council of Europe (2018b). *Reference framework of competences for democratic culture: Volume 2 descriptors of competences for democratic culture*. Retrieved April 10, 2020, from <https://rm.coe.int/prems-008418-gbr-2508-reference-framework-of-competences-vol-2-8573-co/16807bc66d>
- Council of Europe (2018c). *Reference framework of competences for democratic culture: Volume 3 guidelines for implementation*. Retrieved April 10, 2020, from <https://rm.coe.int/prems-008518-gbr-2508-reference-framework-of-competences-vol-3-8575-co/16807bc66e>
- Holt, K., & Seki, K. (2012). Global leadership: A developmental shift for everyone. *Industrial and*

Organizational Psychology, 5, 196–215.

Spitzberg, B. H., & Changnon, G. (2009). Conceptualizing intercultural competence. In D. K. Deardoff (Ed.), *The SAGE handbook of intercultural competence* (pp. 2–52). California: SAGE Publications.

笹島茂・工藤泰三・荊紅涛・Joe Larry・Hannah Haruna (2020)『CLIL英語で培う文化間意識－CLIL Intercultural Awareness』三修社

山本冴里(2019)「Citizenshipの育成は、第二言語教育とどのように関わるか」『言語文化教育研究』第17巻、53-70

免責事項 (Translation Disclaimer)

邦訳の原文は欧州評議会によって作成され、許可を得て使用されている。この邦訳は欧州評議会との取り決めによって発行されるが、邦訳を含むすべての責任は筆者らのものである。

(Text originated by, and used with the permission of, the Council of Europe. This translation is published by arrangement with the Council of Europe, but under the sole responsibility of the translators.)

Reference Framework of Competences for Democratic Culture: Volume 2 descriptors of competences for democratic culture

ISBN Number: 978-92-871-8573-0 (three-volume box set)

©Council of Europe, April 2018

© Nagoya University of Foreign Studies, Japanese translation